

共生～We are the world.～

黒潮町立入野小学校 担当教科／総合的な学習の時間

二岡 裕幸

●実践教科:総合的な学習の時間 ●時間数:14時間 ●対象学年:6学年 ●対象人数:21名

授業実践のねらい

- 地球上の様々な課題解決のために、世界の国々や人々がどのような努力をしているかを学び、自分たちにできることを考え、実行することができる。
- 地球上に生きる私たちは、世界の様々な国や人々と無関係では生きられないことに気づき、他国のことに対して興味を持って調べようとする。
- 世界の様々な民族・文化・宗教・価値観などの情報を収集・活用し、分かりやすく表現することができる。

授業実践の構成

時間	テーマ・ねらい	主な学習活動	使用教材等
第1時 ～ 第3時	モンゴルとの交流について思い出そう	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生の時のTシャツアート展と、それをきっかけとしたモンゴルとの交流について思い出す。 ・地域のイベントをきっかけとしたモンゴルとの交流の内容をシンポジウムで子ども達が発表することを伝える。 ・交流したことの発表に向けてどのような内容にするのか考え、まとめる。 	
第4時	世界の国々に興味を持つ	<ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルとの交流について復習する。 ・他にどんな国を知っているか、またそれぞれの国に対してどんなイメージを持っているか発表する。 ・世界には様々な課題を抱えている国があることを知る。 ・担任のモンゴル渡航の目的を知る。日本とのつながりや、青年海外協力隊のことなどについて触れ、モンゴルでの生活の様子や、日本人の活躍している所を視察することを知らせる。 ・モンゴルの他に日本が支援をしている国について考える。 	パワーポイント①
第5時 ～ 第6時	モンゴルについてもっと知りたいな	<ul style="list-style-type: none"> ・今までのモンゴルとの交流を振り返る。 ・担任が目にしてきたモンゴルについて聞き、フォトランゲージを通してモンゴルの生活について考える。 (1)モンゴルと日本との関係について。 (2)牛の糞を燃料として使っている場面。 (3)モンゴル人と水について。 	パワーポイント② (1)写真 (2)写真 (3)写真 ワークシート ①～④

第5時 ～ 第6時	モンゴルについてもっと知りたいな	<ul style="list-style-type: none"> ・モンゴルの生活と日本の生活の違いについて考える。 (1)自分たちの生活と比べてどう思うか。 (2)モンゴルの生活や子どもの姿を見てどう思うか ・自分たちと違う生活をしている人々に関心を持ち、様々な角度から色々な国について調べようとする意欲を持つように次時の予告をする。 	
第7時 ～ 第8時	国際支援について考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ・JICAの青年海外協力隊としてモンゴルへ行っての方に、モンゴルでの活動内容について話してもらう。 ・どこで、どのような活動を、なぜ出掛けようと思ったのかについて話してもらう。 ・活動内容をふり返り、みんなにどんなことを考えてもらいたいかを話してもらう。 ・実際に海外へ出掛け支援活動をしている人の話を聞いて感想を発表して終わる。 	パワーポイント
第9時 ～ 第14時	地球市民として何が出来るか考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の聞き取りを受けて、支援を必要としている国に目を向け、世界中でどのような課題があるか考えさせる。 ・同じ課題に興味を持った子ども同士でグルーピングをし、調べ学習を進めていく。 ・グループごとに現在の進捗状況を報告しあい、それぞれのグループの発表を聞いて考えたことを発表する。 ・調べたことや、課題に向けて自分達が取り組めることを個人でまとめる。 ・課題に向けて自分達が取り組めることを、国語の時間に意見文としてまとめる。 	ワークシート⑤⑥ ワークシート⑦

授業の詳細

第1～3時 モンゴルとの交流について思い出そう

子ども達は4年生の時に地域NPO主催によるイベント『Tシャツアート展』に出品した。その後、モンゴルでもTシャツアート展を開催することになり、子ども達のTシャツがモンゴルでも展示された。そのことをきっかけにモンゴルの小学生との交流を経験している。2年後、子ども達が6年生になった時、同じNPOが主催するシンポジウムに、そのモンゴルとの交流について発表する機会を得た。そこで2年前を思い出し、どのような形で交流をしていたのか、その時の子ども達の感想などを発表することとなった。この活動を通して、子ども達はモンゴルとの交流を思い出し、国際理解学習への導入となった。

児童の反応

子ども達は、2年前の交流のことをよく覚えていて、あいさつの言葉やその時紹介してもらった遊びについてなど、興味を持って思い出すことができた。モンゴルという国についての調べ学習は、すでに当時に取り組みしており、その時の成果物としてのパンフレットなども大事に保管されていて、今回の一連の総合的な学習の時間のよい導入になった。

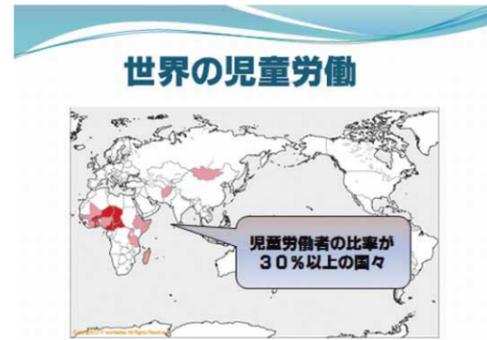
【所感】

過去にモンゴルについての異文化理解についてはすでに学習しており、今回渡航する担任よりも、子ども達はモンゴ

ルについてよく知っていた。帰ってきてから子ども達にどんな展開で学習を深めていけばいいのかこの時点で迷った。逆に言えば子ども達にとって、モンゴルという国はとても身近であり、動機付けにはよい教材になった。

第4時 世界の国々に興味を持つ

子ども達に世界中の中から知っている国、行ってみたい国を挙げさせると、スポーツで有名であったり、ニュースで大きく報じられたりした国など、圧倒的に先進国が多く出てくる。そこで、子ども達にはやや難しい内容にはなったが、各国のGDPを紹介するなどし、色々な視点から諸外国について関心を持つように話をした。その中で世界には様々な課題を抱えている国があることや、日本とのつながり、青年海外協力隊のことなどについて触れ、今回の担任のモンゴル渡航の目的を知らせた。



- 児童の反応**
- 知っている国は20か国もなかったよ。
 - 日本って豊かな国なんだね。経済的な支援をたくさんしているよ。
 - GDPの高い国でもたくさんの支援を受けている国もあるね。どうしてかな。
 - 学校に行かずに働かなければならない子どもが多い国もあるね。どうしてかな。

【所感】

サッカーの強い国、最近オリンピックなど国際大会が開かれた国やテレビでよく紹介されている観光地として有名な国々は子ども達の口からもたくさん出された。また、モンゴルも子ども達にとっては大変身近な国で、首都やあいさつ、通貨なども出てきたが、GDPの紹介や児童労働者数の話を出すとどの子も意外だったようで、探究的な学習への足掛かりとなった。

第5～6時 モンゴルについてもっと知りたいな

担任が目にしてきたモンゴルについて聞いたり、写真を見たりしてモンゴルの生活について考える。

活動の流れ	児童の意識の流れ
<p>1 世界の国々について関心を持つ。</p> <p>外国語活動でも取り上げた内容で、先進国が中心となることが予想される。</p>	<p>世界の国なら20カ国くらい知ってるよ。</p> <p>1学期に発表したから色々覚えてるよ。首都や通貨、人口や面積。他にも羊のくるぶしを使った遊びも知ってるよ。</p>
<p>2 今までのモンゴルとの交流を振り返る。</p> <p>実際に見てきたモンゴルについて考えよう。</p>	<p>日本の旗を踏みつけているけど、仲が悪かったのかな。 資料1</p>
<p>3 担任が目にしてきたモンゴルについて聞いたり、フォトラングージを通してモンゴルの生活について考えたりする。</p> <p>(1) モンゴルと日本との関係について。 (2) 牛の糞を燃料として使っている場面。 (3) モンゴル人と水について。</p>	<p>なんかの固まりみただけで、台所のそばにあるね。なんだろう。 資料2</p> <p>小さな鍋みたいなものに手を入れてるよ。何か料理を作っているのかな。 資料3</p>

- 4** モンゴルの生活と日本の生活の違いについて考える。
(1) 自分たちの生活と比べてどう思うか。
(2) モンゴルの生活や子どもの姿を見てどう思うか。
- 5** 自分たちと違う生活をしている人々に関心を持ち、様々な角度から色々な国について調べようとする意欲を持つように次時の予告をする。
- 子どもがきちんと家の仕事を手伝っているね。水の使い方も日本とは大違いだ。



(1) 日本との関係は？
あれは日本の旗だ。戦争していたのかな。

(2) これは何でしょう？
どうして土が盛ってあるのかな。



(3) 水に対する考え方。
何をしているんだろう。料理でもしているのかな。

- 児童の反応**
- 今までモンゴルの小学生と普通に交流していたから、子どもの暮らしも僕たちと変わらないと思っていたけど、ずいぶん違うんだね。
 - 青年海外協力隊ってどんな仕事をしているんだろう。

【所感】

子ども達にとっては、今までにもモンゴルの小学生と手紙の交流などをしてきたため、言葉こそ違っても日本もモンゴルも同じような生活をしていると考えていたようだ。今回様々な写真を見せながら、担任が実際に目にしてきたものについて、感じたことや考えたことなどを伝えることによって、子ども達はより広い視野を持って諸外国について考えるきっかけになり、次時以降の国際理解学習に関心を持って臨めるようになった。



第7～8時 国際支援について考えよう



今までモンゴルのことを紹介してきた西村さん。元青年海外協力隊員で、小学校で図工を教えていました。

ネットで井戸の掘り方を調べ、単身ケニアへ渡り井戸を掘ってきた鳥谷さん。



児童の反応

- 今までモンゴルの遊びなどを紹介してくれた西村さんは、青年海外協力隊としてモンゴルに行っていたのか。モンゴルの学校はどんな感じだったのかな。
- モンゴルへ行っていた西村さんは今までも何度も学校へ来ていた人だし、鳥谷さんは先生の教え子だった人だ。支援って難しいと思っていたけど身近に活躍した人がいるんだな。

【所感】

国際理解という視点で、単に異文化を知ることだけではなく、国際支援へと視野を広げさせたかった。そのため、担任が目にしてきた支援内容を聞くことから始まり、身近に活躍している人たちの具体的な活動内容を知ることによって、より国際支援が身近に感じられるようになった。

第9～14時 地球市民として何ができるか考えよう

活動の流れ	児童の意識の流れ
<p>1 地球の課題について考えよう。</p> <p>前時の聞き取りを受けて、支援を必要としている国に目を向け、世界中でどのような課題があるか考えさせる。</p>	<p>ぼく達は何も気にしないで使っているけど、安全な水の確保に苦労している国もたくさんあるんだなあ。</p> <p>国語で「持続可能な社会」って出てたけど、何か関係がありそうだな。</p>
<p>2 同じ課題に興味を持った子ども同士でグルーピングをする。</p> <p>現在の進捗状況を報告しあう中で、困っていることについてみんなに助言を求めたり、他のグループのまとめ方を参考にしたりする。</p>	<p>世界には学校に通えないばかりか、仕事をさせられたり、家のない子どももたくさんいるんだな。どうしてだろう。</p> <p>やっぱりモンゴルでは一日に水をほんの少ししか使わないって話が印象に残っているな。</p>
<p>3 それぞれのグループで調べ学習を進めていく。</p> <p>地球の課題について自分達にできることを発表しよう。</p>	<p>最近、地球温暖化についてよく聞くから、温暖化について調べてみよう。</p>
<p>4 各テーブルで、個人のまとめたパンフレットの発表をする。</p> <p>必ず質疑の時間をとり、お互いがアドバイスをし合い、6年生からの発信としてよりよい物を目指すことを確認する。</p>	<p>【水問題】グループへ ぼく達へも普段の水の使い方についての意識調査をしていたね。</p> <p>【地球温暖化】グループへ 面積などを数値だけでなく、高知県の面積と比べたり分かりやすく表している人がいてよかったな。</p>
<p>5 課題に向けて自分達が取り組めることを、国語の時間に意見文としてまとめることを予告する。</p> <p>学習の成果を、意見文として表現したり、チラシを作って全校への呼びかけたりするなど発展させる。</p>	<p>【紛争】グループへ 今までよくニュースで見えていたけど、宗教上の問題などでも紛争が起こっているんだな。ぼく達にできることって何だろう。</p>

児童の反応

- 自分たちの生活を振り返らなければいけないと思った。
- 今までよりも外国のニュースに関心を持って見るようになった。
- 自分たちが調べたことまとめたことを、6年生だけではなく、保護者の人などにも広めたい。
- 自分たちにできることなんてあるのかなと思ったけど、身近な小さなことからできることは色々あることが分かった。

【所感】

今までにも様々な形で学習の材として登場してきた「諸外国」だが、今回新たな視点で他国に興味を持たせることで、子ども達の学習意欲が湧いたように思う。特に、今までにも子ども達にとっては交流のあった国へ、担任自身が行ってきた経験を話せたことは大きい。子どもにとっても交流をしてきていて、ある程度身近であった国だからこそ、担任が実際に見てきて感じたことは子ども達の想像とは違うものであり、興味・関心を持ち続けて学習することができた。

授業実践を終えて(成果と課題)

以前からモンゴルとの交流を経験してきた子ども達で、今回の教師海外研修後も、数時間を使っての他国の紹介や異文化理解では子ども達にとっても目新しいものではなかった。そのため、どのように学級に返していくか考えた末、年間の教育計画を大幅に変更し、総合的な学習の時間から14時間を捻出し本来の課題解決学習のテーマである人権学習へとつなげる計画を立てた。

世界へ目を向け、そこから身近な人権課題へとつなげていく過程は、子どもにとっても無理なく進めていくことができた。また、この調べ学習を通して感じたこと、考えたことを、成果物としてまとめ、さらにチラシを作って配ったり、新聞へ投書しようとするなど達成感も得られたことはよかった。

使用教材

【ワークシート①～⑦】

総合的な学習の時間
「共生 ～We are the world.～」
ワークシート①【世界の国々 いくつ知っていますか?】
6年()

知っている国名を全部書いてみよう。

行ってみたい国 ベスト5

順位	国名	行ってみたい理由(～を調べてみたい、やってみよう)
1位		
2位		
3位		
4位		
5位		

総合的な学習の時間
「共生 ～We are the world.～」
ワークシート②【みんなの知っているモンゴル】

モンゴルについて今まで聞いたことを思い出して何でも書いてみよう!

初めて知ったモンゴル! もっと知りたいモンゴル!



二岡 裕幸 ①

角野 由佳 ②

鼻崎 吉則 ③

川原 恵子 ④

足立 さち ⑤

井上 省吾 ⑥

総合的な学習の時間
「共生 ～We are the world.～」
ワークシート③【写真から考えよう①】
6年()

この写真は？あなたの想像で文章にしましょう。



【書くときのヒント】 次のような表現を使ってみましょう。
順序 : はじめに... 次に... 第一に...
比較 : ～とちがって... ～とよく似ていて... ～と...を比べると
推測 : もし...だったら わたしの予想では...
理由 : そのわけは... なぜなら... だからです。
経験 : ...と聞いたことがあるからです ...を見たことがあります

総合的な学習の時間
「共生 ～We are the world.～」
ワークシート④【写真から考えよう②】
6年()

この写真は？あなたの想像で文章にしましょう。



【書くときのヒント】 次のような表現を使ってみましょう。
順序 : はじめに... 次に... 第一に...
比較 : ～とちがって... ～とよく似ていて... ～と...を比べると
推測 : もし...だったら わたしの予想では...
理由 : そのわけは... なぜなら... だからです。
経験 : ...と聞いたことがあるからです ...を見たことがあります

総合的な学習の時間
「共生 ～We are the world.～」
ワークシート⑤【一つにせよう！地球】
世界で起きている課題について調べてみよう

具体的にどんなことを調べたいのかわかるか？

総合的な学習の時間
「共生 ～We are the world.～」
ワークシート⑥【一つにせよう！地球】
どんな資料があるといいかな？

自分たちができることは？

総合的な学習の時間
「共生 ～We are the world.～」
ワークシート⑦【地球を救え！プロジェクト】

課題について
【私たち「○○」というチームで課題解決に向けて調べ学習を進めています。】

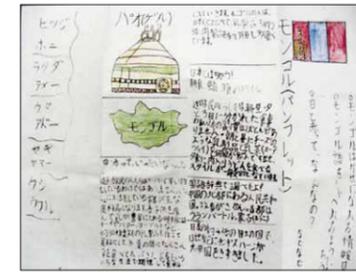
みんなに伝えたいメッセージ
【私のポイントのメッセージは○○です。】

メッセージを考えたわけ
【どうしてこのメッセージにしたかと言うと、(ケニアで安全な水を手軽に手に入れることができない)ことを聞いて、私たち日本人がいかに清潔な水を使っているかをみんなに伝えたいと思ったからです。(地球化が進んで1年というのをテレビのニュースで聞いて、その理由を調べると地球温暖化が原因だということが分かったからです。)】

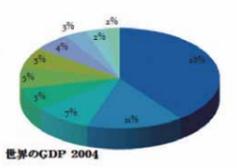
みんなに分かってもらえるための材料
【みんなに水がいかに清潔に使っているかを分かってもらうために、○○を使ってグラフに表すとどう表すか？】
【世界にスマートフォンが売られる子どもが何人いるかを調べたいけど調べ方が分からなくて困っています。】

【パワーポイント①】

共生 2011
～We are the World.～
国際支援について考えよう

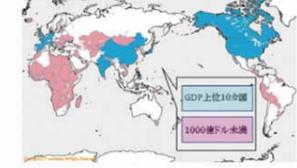


世界の経済力



世界のGDP 2004

世界の経済力



GDP上位10か国
1000億ドル未満

人間開発指標



1位 ノルウェー
2位 アイスランド
3位 オーストラリア
4位 ルクセンブルク
5位 カナダ
6位 アイルランド
7位 スイス
8位 ベルギー
9位 デンマーク
10位 フランス
11位 日本

世界の児童労働

児童労働とは...

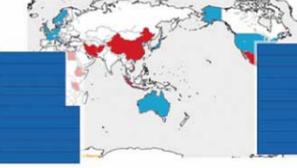
- 11歳以下の子どもを働かせること。
- 12～14歳の子どもを週に14時間以上働かせること。
- 17歳以下の子どもに、「最悪の形態の労働」(強制労働や、兵士として働く等)をさせること。

世界の児童労働



児童労働者の比率が30%以上の国々

世界各国の政府開発援助



【パワーポイント② 抜粋】

モンゴルと言えば...



1. モンゴルってどんな国？



日本のおよそ4倍の広さ

遊牧民族の国

五畜畜... 牛・馬・羊・やぎ・らくだ



モンゴルの全人口は... 2,746,399人
全畜畜の頭数は... 32,729,200人




おわりに...

総合的な学習の時間
テーマ「共生 ～We are the world.～」

- 色々な違いを認め合える。(「日本でよかつた」ははじめ)
- お互いが支え合って生きている。
- 何とかかまぐち → 行動に移せる



参考資料

【書籍】

「世界がもし100人の村だったら」 池田香代子 再話 C・ダグラス・スミス 対訳
「世界地図から学ぼう国際理解 経済」 古内洋平 著 こどもくらぶ 編 ほるぷ出版

二岡 裕幸
報告書①

角野 由佳
報告書②

鼻崎 吉則
報告書③

川原 恵子
報告書④

足立 さち
報告書⑤

井上 省吾
報告書⑥